会　議　録

会議名称	令和元年度　第１回加古川市子どもの読書推進計画（第３次）策定委員会
開催日時	令和元年５月１７日（金）午後３ 時から午後４ 時 20 分まで
開催場所	加古川市役所新館７ 階 １７２会議室
出　席　者	＜委員＞ 森委員（委員長に選出）、渡瀬委員、石田委員、米光委員、今津委員、岡田委員、宮川委員 ＜ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ＞ こども政策課真島課長、幼児保育課宮北課長、社会教育・スポーツ振興課福島課長、学校教育課松尾副課長（境課長の代理） ＜事務局＞ 中央図書館　小浦館長、田中館長（加古川図書館）、成川資料担当係長、田杭
会議次第	１ 開会 （１）中央図書館長あいさつ ２ 議事 （１）加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）にかかるアンケートについて （２）加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）にかかる調査内容について （３）策定委員会等年間スケジュールについて ３ 閉会
配付資料	資料１ ・１－１　加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員名簿 ・１－２　子どもの読書活動推進計画関係者名簿 ・１－３　加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員会の設置に関する要綱 資料２ ・２－１　加古川市子どもの読書活動推進計画（第２次）の概要（令和元年５月） ・２－２　加古川市子どもの読書活動推進計画（第２次）概要版 資料３ ・３－１　「子どもの読書活動実態調査アンケート調査」・「子どもの読書環境実態調査」実施要領 ・３－２　補足資料（アンケート・調査依頼先一覧） ・３－２　子どもの読書活動実態調査アンケート　調査対象施設・配付数

	一覧表 ・３－２　補足資料（調査対象ごとの対象人数一覧） ・３－２－Ａ　市立小学校・中学校・養護学校児童生徒数一覧表 ・３－２－Ｂ　市立幼稚園・保育所・認定こども園児数一覧表 資料４ ・４－１　子どもの読書活動実態調査アンケート票（案）【８種】 ・４－２　子どもの読書活動実態調査アンケート　実施手順（案）【７種】 資料５ ・５－１　子どもの読書環境実態調査　実施施設（案） ・５－２　子どもの読書環境実態調査　配付先明細 資料６ ・６　子どもの読書環境実態調査票（案）【６種】 資料７ ・７　子どもの読書活動推進計画（第３次）策定スケジュール（令和元年度）案

審議内容	
1　開会	（1）中央図書館長あいさつ （2）自己紹介 （3）加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員会の設置に関する要綱について事務局から説明 （4）委員長の選出 森委員長を選出 （5）子どもの読書活動推進計画の概要について事務局から説明
2　議事 （事務局）	（1）加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）にかかるアンケートについて 「子どもの読書活動実態調査アンケート調査」について説明 ・アンケート及び調査の目的は、次期計画を策定するにあたり、子どもの読書活動の現状と、読書環境の実態を把握するためです。 ・実施時期は６月中旬から７月中旬頃とし、学校の１学期中の７月中には回収予定です。 ・アンケートの対象は、児童・生徒と５歳児・未就学児等の保護者です。前回の調査では約 7,600 人を対象としていましたが、本市での他の計画等のアンケート等を考慮し、今回は約 3,900 人を対象とします。 ・小学校用が、低・中・高学年用の３種類、中学校用が１種類です。保護者用は、養護学校保護者用１種類、保育園・認定こども園・幼稚園の５歳児保護者用、子育てプラザ・児童館の来館者用、図書館来館者用が各１種類です。 「子どもの読書活動実態調査アンケート　実施手順」について説明 ・小学１・２年生は、担任の先生による聞き取り調査、小学３・４年生から中学生までは、教室でアンケート用紙を配付し、その場で記入します。 ・養護学校では、幼稚部・小学部・中学部の保護者、幼稚園・保育園・認定こども園では、５歳児の１クラスの保護者が対象です。いずれも、自宅でご記入いただき、期日までに提出された方の分のみ、中央図書館へお送りください。配付から回収までは２週間程度を考えています。 ・子育てプラザ・児童館・図書館等では、就学前の子どもを持つ保護者が対象です。 ・このアンケートで本とは、「教科書、学習参考書、マンガ、雑誌及びその付録以外のもの」を指します。ただし、電子書籍は本に含むものとします。

(ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ)	法人保育園についてのアンケートについてはどのようにされるのか。
（事務局）	法人保育園については「子どもの読書環境実態調査」のみを行います。
（委員）	保護者に対するアンケートは１００％回収しないといけないのか。
（事務局）	前回、保護者のアンケートは約９割の回収でした。期日までの回収で結構です。
（委員）	たとえば、本校では２年生なら１クラス２８人なので、２８人分のアンケートをとればいいのか。
（事務局）	１クラス２８人の学年なら、２８人分で結構です。たとえば、４年生なら１０７人で３クラスなので、３６人分のアンケートを回収ください。 １組ではなくて、学年のどこか１クラスで結構です。
（委員長）	第２次の子どもの読書活動実態調査アンケート調査と内容がほぼ同じであるが。
（事務局）	一部変えているのが、保育園・認定こども園・幼稚園・子育てプラザ・図書館用の保護者用のアンケートの第９問の４か月健診時の「はじめまして絵本事業」をご存じですか、という設問で、５年前は「ブックスタート事業」という言葉を使っていました。ブックスタートという言葉はNPOブックスタートというところが商標登録をしていまして、ブックスタートの事業では必ず子どもたちに絵本を配るという行為を伴わないとブックスタートという言葉を使えません。現在加古川市では子どもたちに本を配付ができておらず、図書館の案内と赤ちゃん絵本のリストしか配付できていないので、ブックスタート事業という名称が使えないので、この部分を変えているが、その他についてはそのままです。
（委員長）	計画の対象は概ね１８歳以下であるが、高校生に対してのアンケートは行わないのか。第２次の計画時に中学生だった子どもが高校生となり、その結果どのように読書にかかわっているのか気になるところである。
（事務局）	当初の計画では、予算的なこともあり、高校生までは考えていなかったです。

（委員長）	高校生のアンケートでは、インターネットやスマートフォンなど紙媒体以外の読書をするかどうかも、アンケート項目にいれてほしいです。
（事務局）	別形式のアンケートが可能かどうか検討してみます。
（事務局）	（２）加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）にかかる調査内容について説明 ・調査は、素案を策定する際の参考とするために、各学校園や施設へ読書環境を知るために行い、内容は、小中学校、幼稚園・保育園等や、子育てプラザにおける、蔵書冊数、貸出冊数、ボランティアの活動状況、読書活動推進のための取組み内容等です。 ・調査対象は、市内保育所・認定こども園・幼稚園・小中学校等の施設です。（法人の保育所・認定こども園については、地域型保育事業所と分園は除きます。） ・志方児童館と志方公民館図書室について、アンケートは児童館の利用者に対して行うが、環境調査は公民館図書室に依頼します。 ・調査票の発送、回収、集計・分析は、事務局（中央図書館）が行います。
（委員）	内容について、小学校で「図書」の時間（授業）はどのくらい取れているか調査に入れることはできるのか、図書ボランティアが縮小されていて、小学校で「図書」の時間が十分に確保されていない気がします。
（委員）	「図書」の時間は時間割に入っているが、学級数の多い学校になると、高学年では、１時間「図書」の時間に図書室を確保するのが難しいです。調べ学習、総合的な学習と並行して図書室を使っています。低学年、中学年は時間割の中で図書室に行って読書を行っています。学校によっては違うかもしれない。朝読は行っている学校があります。実態調査をしたら何かわかるかもしれないです。
（委員）	「図書」の時間は高学年では取れなくても、せめて３年生くらいまでは自分の好きな本と向き合ってほしいです。実際のところ図書の時間がちゃんと確保されているかどうかを知りたい。「図書」の時間がなくなってしまわないか不安です。
（事務局）	教科書の学習内容が多くなってきたのはいつぐらいからでしょうか。

（委員）	今は学習指導要領が移行期間で、本格的な実施が２０２０年度となります。時間割を組むのが厳しくなっているのは事実せづ。時間割には「図書」の時間が入っているが、時間割の進度等もある。新しい指導要領になっても「図書」の時間はあると思います。
（事務局）	もし図書の時間の設問を小学校のアンケートに入れるなら、校長先生への質問で学校では図書の時間（低学年・中学年・高学年）をとれていますか、と入れてもいいでしょうか。
（委員）	実態は各クラスによって違うが、管理職としては時間割に図書の時間は入れているという答えが出てくると思います。
（委員長）	アンケートがクラスによって回答が違うということですか。
（委員）	実施はどうですかと聞くと回答は変わってくるかもしれないが、時間割の中には入っています。
（委員長）	国語以外に学校図書館を利用した授業の展開というのはどうですか。
（委員）	総合的な学習の時間ということで、体験と調べ学習に分けられるが、調べ学習の時にはインターネットや中央図書館や、図書室で調べる、など国語以外の社会などでも高学年になると活用しています。
（事務局）	この調査票は一校に一枚送るので、最後の設問以外は図書館教育担当の先生が全校の状況を答えて頂くので、個々のクラスの状況を答えてもらうのは難しいです。学校の図書室というのは、読書センターとしての機能と、学習情報センターとしての機能があります。調べ学習というのは、学習情報センターとしての図書室を使うことで、危惧しているのは、読書センターとして子ども達が物語に触れる時間が少なくなっているのではということでしょうか。
（委員）	純粋に子ども達が好きな本を楽しむ時間がどのくらいとれているかということですね。
（事務局）	前回、調査したのが平成 26 年です。そのころと比べると教科の学習分量が増えています。各クラスの実態は調べることは難しいが、参考程度になるが、最後のところに「図書」の時間についての設問をいれることにしま

	す。
（委員長）	読書のために図書室を使っているのか、調べ学習のために図書室を利用するのかなどは、アンケート調査でもう少し突っ込んだ質問を入れた方が、読書の実態を把握できるのかと思います。どんな内容の本が好きですかとか、学校図書室の使い方についての質問などはどうですか。第２次と設問が全く同じなので違う設問を入れた方がいいと考えるがどうでしょうか。
（委員）	子どもたちは授業時間以外にも朝の時間や、業間の時間に図書委員や保護者を中心とした図書ボランティアさんに来ていただいて、本の貸出をしています。また、クラスで 50 冊ずつ借りているので、その中から読んだりして自分の好きな本を読んで、工夫して本に親しむ時間を取っています。
（事務局）	県や国のアンケートでは読書の内容に踏み込んだ調査がなかったので、前回も今回も入れてなかったです。先ほどのアンケートも環境実態調査も、そのような項目を入れたほうがいいでしょうか。
（委員）	どんな本を読んでいるかは知りたいです。設問で学習参考書、漫画や雑誌は除くと書いてあるが、業間に図書室に来る子は大半の子は学習漫画を読んでいます。
（事務局）	例えばどんな内容の本を読んでいますかという質問の回答の選択肢の設定はどのようになりますか。
（委員長）	絵本、小説、歴史ものの本などで、学習漫画を入れるかどうかでしょうか。
（事務局）	これは歴史の本だという概念が、小学生の子ども達にどこまでわかるかどうかとおもいます。 設問を増やすのは厳しいので、この設問を入れるなら、どれかを削る必要があると考えます。
（委員長）	設問については今すぐ返答できる内容ではないので、持ち帰っていただいて検討ください。
（事務局）	アンケートの方は持ち帰り検討しますが、環境実態調査は図書館が作成して集計しますので、内容の追加は可能です。小学校の部分に関して「図書」の時間の実施状況の設問をしてもよろしいですか。

（事務局）	（３）「子どもの読書活動推進計画（第３次）策定スケジュール（令和元年度）」を説明 ５月末から６月中旬の小中学校校長会、市立幼稚園園長会、市立保育園園長会、法人保育園園長会等に、事務局より依頼と説明に伺います。 子育てプラザ、児童館、公民館図書室並びに私立幼稚園には、直接依頼と説明に訪問します。 依頼時もしくはご依頼後、実際にアンケート及び調査票を送付します。 児童・生徒へは夏休み前の一学期中に実施し、回収します。 保護者へ配布いただくアンケートは、配付から回収までに、２週間程度の期間を取り、各幼稚園・保育園へ提出いただきます。 調査票も各学校園・施設等で回答いただき、アンケートと共に、７月末までに中央図書館宛て、庁内の連絡便でお送りください。 事務局で集約した調査票を集計いたしまして、その結果について９月下旬頃を目標に取りまとめます。 調査票の結果を受けた第２回策定委員会を、１０月上旬頃に開催予定です。 また、アンケートの結果を受けた第３回策定委員会を、１１月下旬頃に開催予定です。 その後、年度末までに、推進計画の基本方針並びに取組み内容等の素案について、ご検討いただく会議を開催予定です。 策定委員会とは別に、推進連絡会といたしまして、年２回の会議を予定。時期は、９月末と２月末の予定しています。
（委員長）	ただいまの事務局の説明について、何か質問やご不明な点などありますか。 議事は以上です。その他皆様より情報交換及び全般についてご意見等ありましたら、お願いします。
（事務局）	高校生へのアンケートは、加古川市内には県立高校しかないが、直接依頼してもよいか。
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	直接依頼して高校が大丈夫であれば可能だと思う。
３　閉会 （委員長）	あいさつ